

自主・友愛・剛健

Be a Challenger! ~ 飛躍 仲間と共に最高の思い出を ~

9月13日(土)に運動会を開催しました。当日は多くのご家族の皆様にお越しいただきました。また、青野高陽町長様をはじめ、日頃お世話になっております地域の皆様にもご来場いただき、多くの方々に見守られながら運動会が盛大に開催できたことに感謝いたします。当日は曇りで風が吹くことによって湿度も下がり、最高の環境の中で無事終了することができました。

今年度でピア・サポート(お互いを支え合う)活動も5年目を迎えました。ブロック旗作成・ブロックアピール・ロックソーラン・競技種目など様々な場面でリーダーが中心となって生徒主体の活動を目指しました。練習に臨む前に必ずそれぞれのリーダーが作成する「練習プランシート」も年々充実したものになり、リーダーがたてた具体的な目標と明確な理想の姿を生徒全員や教職員が共有し、全体を一つにすることができたと思います。残念なことは、WBGT(暑さ指数)急上昇や雨天のために各リーダー達が練習計画の変更を余儀なくされたことです。しかし、その変更さえもリーダーたちは“力”に変えていった気がします。

今年の運動会の特徴は、様々な場面で3年生を中心とした生徒たちの『活力』を感じたことです。練習の時から“笑顔”“大声”“大きな動き”が見て取れました。大きな学校行事を成功させようとする強い思いを感じることができました。本当にご苦労様でした。



広島原爆投下から80年… 平和への思い…

今年で広島・長崎に原爆が投下されてから80年が経過しました。8月は終戦記念日もあり、平和について考えるべき月です。本校では、毎年、全校登校日において平和について考える時間を設けています。今年は、3年生が沖縄での戦時中を描いた『さとうきび畑の唄』、2年生が広島での戦時中を描いた『この世界の片隅に』のDVD視聴を行いました。

1年生は、毎年、校外より講師をお迎えして平和講演を行っています。今年は、広島平和文化センターが委嘱している被爆体験伝承者・川上弘美様を講師にお迎えしました。川上さんは、2000年より小学校や保育園等で本の読み語りのボランティア活動をされています。毎年7月には戦争のことや平和の尊さについて子ども達に考えてほしいという思いから、原爆で亡くなった男の子が主人公の「よっちゃんのビー玉」など戦争に関する本の読み聞かせを行っておられます。そんな中、川上さんの読み聞かせを聞いた子どもさんの保護者から感謝の言葉を受け取り、それが被爆体験伝承者を志すきっかけとなったそうです。講話では、実際に被爆された河野きよみさんの体験と川上さんの平和への想いを伝えていただきました。「14歳で被爆した河野さんになったつもりで、足跡をたどってほしい」という川上さんの言葉を胸にそれぞれが平和への思いを改めて感じたと思います。少しですが、感想を掲載します。



平和講演会 “生徒の振り返り” より … ※一部抜粋

- 被爆者が高齢になってくると、昔こういうことがあったんだよと伝えることができなくなってしまう。川上さんのような伝承者をどんどん増やしていくことで、いつの世代になっても戦争の恐ろしさを伝えることができるので、今回の経験を大切にしていきたい。
- 私たちが平和に楽しく過ごしていることは当たり前ではないと改めて感じ、これから自分がどのように生きていきたいかを考えることができた。

【10月の主な行事】 ※詳細につきましては、“中央中学校ホームページ”をご確認ください

1日：6校時授業 2日：3年校内テスト/選挙管理委員会 6日：専門委員会(前期)
8日：6校時(45分)授業/壮行式 10～11日：県秋季大会地区予選会
15日：6校時授業/生徒会演説会選挙 22日：文化発表会 23日：職場体験事前訪問
27日：確認テスト 29日：職員会議・生徒会認証式 30日：校内研修
31日：確認テスト/豊かな心づくり鑑賞会

つばやき…

中央中学校に着任して6回目の運動会が終わった…。新型コロナの影響でご家族のみ、また、無観客・平日開催という苦渋の決断をしたことが昔のように感じる。ここ数年は、猛暑の影響で練習も計画通りに実施できず、子どもたちもストレスを感じていたことだろう。しかしながら、どんなに制限が加わっても子ども達のパワーと笑顔は途切れることはなかった。過去も含め、様々な立場でアピールを繰り返す子ども達に感謝です。先生方のサポートはもちろんありますが、生徒主体の運動会が立派に成立している…。年々、ひょっとして開会式の校長あいさつ不要なんじゃないかと思わせてくれる、いや実際にいらなかったなあ…と心から感じてしまいました。